

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0990400137 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 常盤福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム万葉 堀米の里 | | |
| 所在地 | 栃木県佐野市堀米町1270-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年9月2日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年1月9日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年11月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の身体状況を把握し、地域密着型施設として、近隣の開業医との連携を図り、体調不良時の際は往診に来ていただいております。また、お客様の生活の主体者として、日々の生活に不安なく安全に過ごして頂けるような環境を提供できるよう心掛けております。お客様の要望に沿った外出支援(外食、ドライブ、お花見、散歩、買い物)おやつ作り等に力を入れております。また、認知症の進行を少しでも和らげるためにくもん学習療法を行っております。また、排泄の自立支援にも力を入れ、個別での対応ができるよう努めています。ご家族様の面会も頻回にあり、ご家族様にとっても過ごしやすい環境を提供し、お客様とご家族にとって過ごしやすい空間が保てるよう心掛けております。1階との合同行事も企画し、お客様にとって少しでも楽しい時間を過ごして頂けるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角に建つ当事業所は、駅に隣接しており交通の便も良い。当事業所の1階には同法人の小規模多機能ホームが併設され、今夏には隣接する敷地に特別養護老人ホームも完成し、各部署と連携をとりながら、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられることを大切に、利用者の生活を支える住環境整備に努めている。近隣保育園の誕生会や地域行事へ積極的に参加するほか、法人や事業所の主催する祭やバーベキュー、音楽会、認知症の勉強会や行政による防災や福祉制度についての講座など、様々な地域交流の場を設けている。事業所と地域との繋がりの広がりはもちろんのこと、それらの機会を通して、その時々地域ニーズの把握にも繋がっており、地域に根付いた事業所としての役割を果たしている。また、人との繋がり、コミュニケーションに重きを置き、利用者、家族、職員間の関係を大切に考え、話しやすい関係作り、働きやすい環境作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「感動・満足」という法人の理念のもと、お客様本位の生活の提供を目標に一人ひとりの支援内容を振り返りながら実践に取り組んでいる。 | 法人理念である「感動満足」を基に事業所独自の特徴として「お一人お一人に合わせたサポート」「公文学習療法」「あたたかい生活空間」を掲げている。個々の日常生活の満足はもちろん、様々な活動を通して満足以上の感動を提供できるようブラサルファの支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 法人で実施する夏祭りや、事業所で行われるイベントには地域住民の方々にも参加を呼びかけ交流を深めている。また近隣の保育園のイベント等にも積極的に参加している。 | 夏祭りやバーベキュー、マグロ解体ショーなど様々な法人行事には地域にも声をかけ近隣住民が参加している。保育園の誕生会や育成会の餅つき、敬老会行事やグラウンドゴルフにも参加・協力している。日頃から交流の機会を多く設けており、地域との繋がりが密である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 行事に参加していただきながら、お客様との交流を地域の方々に図っていただいている。また、運営推進会議でも地域代表の方と話し合い、認知症の方の理解や、支援を地域の方々に理解していただけるよう心掛けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、お客様、家族、民生委員、地域代表の方、市役所職員の参加により2か月に1度小規模多機能と合同で参加している。会議では利用状況や、行事内容報告のほか意見交換や地域情報等の提供がある。また、避難訓練や防災の講演等も行政との連携を図り行っている。 | 併設の小規模多機能ホームと合同で開催し、事業・活動報告、利用者の状況を伝えている。自治会長や民生委員が参加して地域の情報を共有し、地域との繋がりがりや災害対策にも会議を活用している。家族や地域、行政など、それぞれの立場からの意見を参考にサービス向上に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当者には、日ごろから制度や提出書類等の相談や、困難事例等の報告、相談を行っている。必要に応じて地域包括支援センターとも連携し、自事業所だけでなく、社会資源を利用し、お客様の支援を行っている。 | 市各課担当者とは、手続き等での庁舎訪問時や運営推進会議等を通し、日頃から情報交換し関係を密にしている。地域に向けた高齢福祉制度についての説明会開催や事業所の取り組みを活かした地域協力など、地域密着型の事業所として積極的に関わり、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体安全委員会に委員が所属し、定期的な委員会活動や勉強会を開催している。身体拘束に該当する行為や防止策の把握に努めている。言葉での拘束にも配慮し、「少し待ってください。」や「座っててください。」等の抑制するような言葉は使わないように注意している。 | 身体安全委員会にて毎月話し合い、より実践に即した対応ができるよう、具体的な内容を数値化・可視化し、まとめている。年2回、全体勉強会を行い職員への周知、再確認をしている。職員間で気付いたことを互いに注意しあいながら、利用者本人が納得できる声かけ等を工夫し、拘束のないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止関連法について学ばせてもらっている。法人内の研修等で虐待についてスタッフが研修を受けている。言葉遣いにも注意を払い、事業所内での虐待になるような行動がないよう努めている。 | | |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 身体安全委員会に職員が所属し、定期的な委員会活動や勉強会を開催している。成年後見制度も必要な方には紹介させていただきながらお客様の人権が守られるよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書や利用者契約書等ご入居前に本人、ご家族に時間をいただき説明させてもらっている。その後疑問点が生じた場合にはその都度対応させてもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や面会等で意見を伺い、反映させるようにしている。ご家族や面会の方には積極的に話しかけご要望をうかがっている。 | 利用者との日頃の会話、家族との対話を大切にしている。家族の面会時には、まずは利用者の日頃の様子を伝え、話の取っかかりを掴み、意見を引き出すよう努めている。他愛のない会話やふとした言葉も大切に受け止め、小さな事から改善に努め対応している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回ユニット会議を実施し、意見や提案を出し合っている。管理者や代表者が職員の意見をまとめ、施設長等に報告できる組織作りを行っている。 | 職員から挙げられた意見は「利用者の生活の質向上に必要なことか」を一つの基準とし、どんなこともまずは取り入れ、目標を明確にし、より良い運営に向けた評価・改善に繋げている。管理者は日頃から職員の話に耳を傾け、人と人との繋がりを大切にしたい組織作りに努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアアップした際、合格支援制度等職員のやりがいを応援できるよう、工夫している。また年2回人事考課を実施し、自己評価、代表者評価を行った後管理者が職員に対して面談も行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人全体で新人研修、中途採用者研修、認知症や看取りについての研修を行っている。外部研修にも積極的に参加し、月1回開催される部署別会議でも認知症や権利擁護、感染症などの知識について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修を通して佐野市内のケアマネージャーなどつながりを持ち、活動内容や、社会資源の有効活用などの報告や助言を受けるなど交流を図っている。 | | |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人様とお会いさせていただき、困っていることや不安なこと、生活の支障となっていることを確認させていただき、職員間で情報を共有している。また入居後は信頼関係が築けるよう努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にはご家族様ともお会いさせていただき、現在の困っていることや要望などを確認させていただいている。入居後も気づいた点は遠慮なくご意見いただけるよう環境整備に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現状は何が支障となって入居を検討しているのか聞き取りを行ったうえで、お客様に本当に必要なサービスは何かを共に検討し、提案できるよう心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 基本的には利用者本位の生活ができるよう支援させていただいている。その中で「共感・共有」させていただける時間を大切に生活のサポートをさせていただいている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族には日々お客様の状態の報告を面会時等に行い、生活内容も周知していただけるよう相談等もさせていただいている。また、利用者の要望等あればその際に伝えることも行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | お客様、ご家族よりなじみの場所やご本人様の趣味趣向等把握し対応できるよう心掛けている。また、面会にいらした方とゆっくりと会話ができるような環境を整えている。 | 日頃の会話や利用開始時の聞き取りから、馴染みの関係や本人が大切にしている習慣などの把握に努めている。親族の訪問の他、安全面やプライバシーに配慮しつつ友人の来訪も受け入れている。家族の協力のもと、帰省や外泊、馴染みの飲食店や銭湯などへの外出を支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お客様同士会話の合う方や、気の合う方どうしで席を考慮している。また、個別の対応が必要な方に関しては、職員が間に入り、会話をサポートするなどの工夫をしている。 | | |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用(契約)が終了しても、必要に応じてはご本人様、ご家族様の相談に対応させていただいている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | お客様の思いや、以降の把握はご本人様やご家族様にも協力していただき、把握できるよう心掛けている。日ごろから何でも言いやすい環境を作っていけるよう努めている。 | 本人の生活歴を理解した上での現在の生活の希望をくみ取るよう努めている。日頃の様子やふとした表情、言葉、態度などを、各職員それぞれの視点から細かく観察し記録することで、職員全員で共有し、利用者一人ひとりの行動の意味や思いの把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前にこれまでの本人の生活を調査させていただき、入居後も以前の生活スタイルに即した「生活の継続性」を目標に日々、情報の共有を行いながら、支援をさせてもらっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活の状況、過ごし方等を記録に残し、職員全員が周知できるよう努めている。また、自立支援を目標に、本人のできるようになるべく行っていただくことで残存能力の活用、維持ができるよう心掛けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族より意見をいただきながら、関係者とモニタリングを重ね、改善・維持・予防の項目に分け、本人の想いが叶うような介護計画を作成することを目標として取り組んでいる。 | 定期的なモニタリングでは、掲げた目標とADL、QOL等が適しているか確認し、改善・維持・予防の項目に分け、より生活に即した介護計画となるよう見直している。本人の意向を第一に、家族の希望と現場の意見を吸い上げ、必要な支援が明確になる介護計画作りをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の言葉や様子をありのままに記録し、職員間で情報が共有できるよう努めている。また少しの変化に気が付けるよう、各自気になったところは細かく記録するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | できる範囲で本人、家族の希望しているサービスを提供できるよう努めている。できる限り個別に対応させていただくことを行いながら、法人内の他事業所とも連携を図り合同行事等にも参加するようしている。 | | |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 喫茶店やレストランに出かけたり、出前のサービスを利用することもある。保育園の行事にも月1回訪問し参加させていただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的に入居前からのかかりつけ医を主治医として継続していただいている。ご家族の送迎等で受診は行っているが、状態を伝える時など必要時は職員も同行させていただき、連携を図っている。 | 基本は利用前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。利用をきっかけに認知症専門医や訪問診療を希望する方もいる。状態を記したメモや口頭にて日頃の様子を家族に伝え、受診付き添いをお願いしている。必要に応じて看護師や職員が同行することもある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設の小規模多機能の看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。主治医にも適時相談し、指示をいただくなどの対応をさせてもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際には入退院胸痛連携シートを活用し、これまでの既往等情報伝達が素早くできるよう対応している。また、退院時期には病院のソーシャルワーカーと密に連携を取り、退院前に本人の状態を確認し、こちらでの対応方法を事前に説明するなど病院側への配慮も行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期の支援に関しては、早い段階からご家族様よりご意見をいただいている。事業所でできることを十分に説明し、方針を共有できるよう話し合いを行っている。重度化した場合でも、できる限り本人らしい生活ができるよう支援する努力をしている。 | かかりつけ医の指示のもと、状況に応じて必要なケアを明確にし、看護師や家族と連携を取りながら看取りにも取り組んでいる。重度化した際には同法人の特別養護老人ホームの利用を希望する方もおり、見学や手続きの流れなど、スムーズに移行できるようサポートしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に急変時などの勉強会を開催し、すべての職員が対応できるよう努力している。事故報告書を活用し、今後の対応策も検討し、同じ事故が起きないように工夫している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防訓練は併設している小規模多機能と年2回実施している。夜間想定訓練も行っている。また、運営推進会議内での消防訓練も行い、地域代表の方に意見をもらうなど災害時の対応について話し合い、検討を重ねている。 | 2階ベランダからの避難の際に梯子車の障害となる庭木を整理したり、地域の消防団に建物内を見てもらい有事の際の実際の動きを確認している。火災想定災害対策・消防訓練の他、風水害対策に取り組んでいる。1階の小規模多機能ホームと隣接の特別養護老人ホームとの協力体制を整えている。 | 完成した「風水害対策計画」をもとに、より具体的な体制づくりとして、実際の動きを確認するためにも、防災訓練時には水害想定訓練の実施を期待したい。 |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | お客様の人格や、尊厳の保持に努めている。節度ある言葉遣いを心掛け、羞恥心にも配慮した支援に努めている。 | 堅苦しくなりすぎずアットホームな場面においても、親しみをもちつつも馴れ合いにならないよう、丁寧な言葉を使うようにしている。入浴や排泄介助時はもちろん、何かの活動をするときも無理強ひすることなく、本人の思いを大切に、一人ひとりの誇りや羞恥心に配慮した対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の能力に合わせた自己決定ができるよう支援を行っている。普段の会話の中から希望がくみ取れるよう職員各自で意識して傾聴させていただいている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や入眠時間、起床時間などは本人の生活のリズムに合わせて支援させていただいている。また、1日の中でできる限り本人の希望がかなえられるよう対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 昔から着ていた洋服などを持参していただき、その日に本人の着たい洋服を選んでいただくなど少しでも自己決定の機会が作れるよう支援している。また、家族に協力していただき、時期で衣替えなどを行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる限りご自身で食べやすい食べ方で召し上がっていただけるよう支援している。お客様の中で下膳や食器洗いなど手伝ってくれる方がいるので職員と一緒にやっている。 | 給食会議で食事内容を検討し、外部の委託給食を利用している。温めや刻み等の個別対応部分の準備は調理担当職員が行っている。誕生会で本人の嗜好や健康状態に配慮したケーキを手作りしたり、敬老の日や父の日・母の日には外食したりと、普段とは違った食も楽しめるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量は毎食記録し、アレルギーや制限等の対応も行っている。水分摂取量の確保に関しては声掛け、提供を行い、水分制限のあるかたに対しては、水分量を測定し提供。提供分は記録に残すようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声掛け誘導を行い、口腔ケアを行っている。義歯消毒が必要な方は毎日夜間消毒している。 | | |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | オムツの必要性、パットの大きさは常に検討している。また、尿意のない方に対してはこちらで誘導させていただき、失禁による不快感を軽減できるよう支援を行っている。 | 自立している方や尿意のある方には、声かけや介助によりトイレでの排泄を支援している。尿意のない方は排泄チェック表に記録しパターンを把握し、一人ひとりに合わせたタイミングでの声かけや誘導をして、できる限りトイレでの排泄を継続できるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取の声掛け、提供はこまめに行い、排便状況は確認している。また、主治医との連携により内服コントロールにて排便を促すことや、腹部マッサージなどで対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | お客様の体調や気持ちを考慮しながら週に2～3回程度の入浴を行っている。また、寒いときなどは脱衣所を温めるなど精神面、身体面にも配慮できるよう工夫している。 | 拒否のある方もタイミングや声かけを工夫し、週2回以上1対1での支援を基本に、入浴剤や好みのシャンプーの使用など、気持ちよく入浴できるように配慮している。自立している方は見守り、介助の必要に応じ2人体制での支援や、褥瘡のある方は回数を多くするなど、個々の状況に合わせた支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 定期的リネンを交換し、清潔な状態で入眠できるよう環境を整えている。また、入眠時間に関しても、本人の希望の時間や、臥床してからのラジオ鑑賞など希望に沿った自宅での生活に近いものが提供できるよう工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々に内服薬の目的や副作用、用法、用量についての書類を整理し、確認している。服薬後の状態把握に留意している。変化がある際には素早く主治医に相談、指示をいただくようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 趣向品を持ち込んでいただいたり、外出や外食などそれぞれ楽しんで生活できるよう取り組んでいる。また、家事なども本人の希望されるときには参加させていただき、自分の「居場所」としての環境を整えられるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 季節を感じられるような外出支援は積極的に行うようにしている。本人の「〇〇したい」という希望があればできる限り対応させていただいている。 | 寿司が食べたい、外に出たい、帰りたいといった本人の希望や思いにそった支援ができるよう努めている。外食に出かけたり、近隣の散歩や買い物へ出かけたりといった支援のほか、家族の協力を得ながら可能な範囲で個別の希望の場所への外出を支援している。季節毎の花見や、家族も誘い県外の観光地へのバス遠足も実施している。 | |

グループホーム万葉堀米の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お客様の好きなように使用できるお金を預り金という形で預かっている。希望時は個人的な購入や外出の際の支払いに使用している。できる方はご自身でお金を払うなどと支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙のやり取りは自由にできる。希望がある方はご自身で携帯電話を持ち込み使用していただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室温、湿度の管理はさせていただいている。リビングは特に日当たりも良く、解放感もあり明るい空間が提供できている。トイレは排泄後の臭いが残らないよう消臭剤を置くなど、不快感を感じないよう環境を整えている。 | リビングの南側にはベランダに面した大きな窓があり、風通しもよく、自然光が差し込み明るく暖かい。2台の加湿器を設置し温湿度管理に気を配っている。掃除担当の職員による室内の清掃、椅子の消毒等を毎日行い清潔を保っている。季節の生花や利用者の作品等を数点飾る他はあまり華美にせず、家庭的で落ち着きある空間となるよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングの中でも数か所椅子やソファを配置し、常に同じ場所ではなく、好きな時に好きな方と好きな場所で過ごして頂けるような環境を整えている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅で使用されていたものや飾られていたものを自由に持ち込んでいただき、なじみの空間が作れるようご家族にも協力していただいている。荷物等で危険が生じる際にはご家族に相談させていただいている。 | 洗面台・エアコン・介護用電動ベッド・筆筒・カーテンなどは備え付けである。衣類や布団などの身の回りの物の他、掛け時計や思い入れのある装飾品などを自由に持ち込んでもらい、心地よく過ごせる居室づくりを支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの場所がわかりにくい場合には貼り紙をしたり、夜間のトイレまでの道中は足元をライトで照らすなど安全に移動ができるような工夫を行っている。 | | |